

二宮翁夜話

今和の身 第三回 4/10 (水)

読解

地の巻(報徳の法則)

第六篇 生活をどうする 分夜の法則

一四八 p.196 止まるところを知る

天命にまかして、その旨を学べこと。

一四九 p.199 分夜の確立を本とする

分夜を越える 過ちは改めるべき

分夜外はあつちにもあつち譲る世のふせにする

一五〇 p.199 分夜の富國の真の本にしよう

かまの刃、のこぎりの目、はかり、あすの用意

(よこごと) (よこごころ)

孝經 廣豆徳意第十三

教以孝、所以敬 天下之為人文者也。

教以悌、所以敬 天下之為人兄弟也。

一五一 p.200 分外の損得を分内でのかる事

結構な仰せとらるるヤ ↓ 今自らの分夜を定める

先達 立ちかちを、先達を譲るに、中心、孝にしよう

一五二 p.201 現職を退けば分夜を切り下りよ

驕奢をなくして、分夜をきき、驕奢を憎むべし

大き過ぎるにしよう

一五三 p.203 分度は針櫃の松

人の身代はあおのり限夜がある

丁度針櫃の松と同じこと、針は心の持ち母を譲る

この針要

一五四 203 無用の枝葉を捨てる

。すむに枯れえつゝしゆくと、むら枝葉を切つては間に合ふ

静淵卷十二ノ九

哀公問於有若曰、年饑用不足。如之何。有若對曰、蓋徹乎。曰、
二吾猶不足。如之何。其徹也。對曰、百姓足、君孰與不足。百
姓不足、君孰與足。

五

一五五 p204 樹木の植替を八反の切替

。あせり手の少あつたは作法を立てて、着し方を編める

一五六 p205 一家を維持する推譲の道

。推譲は家の第一の法。一常に推譲の道を教ふる

(二百石の身代り者は五十石の暮し、五十石を譲る)

一五七 p206 非理法權天 || 楠公の遺文

。仙教のつゝ無門閉しといふ

「中庸」

誠則明矣、明則誠矣。(第二十一章)

「誠者、天之道也。誠之者、人之道也。」(第二十章)

一五六 p208 天福を保つ道

(天家の治るを) 一、衣食住の三つと命を養ふ

一五九 p.209 材木の性々人の性

。我木を取るときは、木のしんを去さぬようにする。
人の性をあらわさぬようにすれば、皆んな徳ある。
。扱き伐りに心得がある。

一六〇 p.210 増産こそ國を富ます事以也

。富國之道は農業者を擧ぐ力と米穀を増産

するところにある。
の節から見れば土地をまじ半開である

一六一 p.212 分限をつつめて有余を譲る

「穀淵問仁。子曰。克己復禮為仁。

一日克己復禮、天下歸仁焉。」(穀淵第十二)

の分を譲る道を大きく実践する。己に告ぐに
結果おかしう天下に、これに帰する事がある。

一六二 p.213 貧乏者は身をもつて然をあたせ

。然をもつて身をおこすのは富者の道。

。是故君子先慎乎德。

有德比有人、有人比有土。

有土此有財、有財此有用。」(大学)